

## 京都市・乙訓地域公立高等学校の新しい教育制度（案）に係る 意見募集の結果について

「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会」から提出された「まとめ」を踏まえ、京都府教育委員会とともに策定した「新しい高校教育制度（案）」に対して、府民・市民の方から以下のとおり多数の意見が寄せられました。

今後、提出された意見も参考として、京都府・京都市教育委員会で制度の詳細について、さらに検討を加え、来年1月中を目途に「新しい京都市・乙訓地域公立高等学校の教育制度」の具体案を決定します。

### 1. 意見募集期間

平成24年11月9日（金）から11月30日（金）まで

※募集方法は郵送、ファックス、電子メールのいずれかによる。

### 2. 意見提出件数

452件（京都府：217件、京都市：235件）

※郵送は12月1日消印まで、ファックス及び電子メールは12月1日到着分まで含む。

※京都府・京都市に重複して提出された意見は市の件数に含む。

※府民・市民説明会で投函された意見を含む。

### 3. 周知方法

(1) 印刷物の配布 … 約53,000枚

※市役所・支所、関連施設（図書館、市民会館等）、公立小・中・高・総合支援学校等、銀行（京都、京都中央信用金庫、京都信用金庫の京都市・乙訓地域の支店等）等

(2) ホームページの掲載 … 京都府・京都市の両教育委員会

(3) 府民・市民説明会の開催 … 2日間にわたり3会場で4回実施。計1,100名を超える保護者等に参加いただいた。

ア. 平成24年11月23日（金・祝）

・京都市立京都堀川音楽高校 10時～（参加者：約350名）

14時～（参加者：約250名）

・長岡京市中央生涯学習センター 10時～（参加者：約300名）

イ. 平成24年11月24日（土）

・向日市民会館 14時～（参加者：約210名）

#### 4. 意見の概要

- 保護者や学校教職員等を中心に、幅広い観点で意見が寄せられている。概ね賛成あるいは新制度に期待する一方で、前期選抜の募集定員の割合や中期選抜の方式、後期選抜の内容（学力検査を課さない）など、新制度（案）に対する部分的な反対や具体的な提案等に関する意見が多い。
- また、制度が変わることへの心配に加え、具体的な選抜方法や類・類型廃止後の普通科の各コース内容、新制度の実施時期を早く明らかにするよう求める意見や生徒・保護者への丁寧な周知・説明を望む意見も多くみられ、今後、こうした意見を踏まえ、引き続き制度の詳細について検討する。
- なお、中学校の進路指導や高校の教育内容・施設整備の充実等に関する意見も多くあったため、その充実や改善等にも努めていく。

#### 5. 主な意見内容

##### (1) 類・類型制度の廃止について

- ・高校入学後の進路希望の変化にできる限り対応できる制度にすべきである。1年次は共通のカリキュラムとし、2・3年次で一定のコースに分かれていくのが自然である。
- ・学年進級時のコース変更には賛成である。専門的なコースからの移行もできる限り柔軟にし、挫折する生徒を減らすような柔軟な措置を設けてほしい。
- ・今まで以上に専門性のあるコースが望まれる。また、コースの目的が解るよう、共通のわかりやすい名称としてほしい。
- ・新たにコース制を設置するのは、結果として変わらないのではないか。様々な目的を持った生徒が交流し人間関係を構築し学びあえる環境を作るべきである。
- ・区別をなくすと学習レベルの異なる生徒が同じ学級で学ぶことにより、意欲のある生徒が授業に集中できなくなる。

##### (2) 通学区域について

- ・高校を選べる時代になってきたことは大変喜ばしい。行きたい高校に挑戦できるようにすべきである。
- ・通学区域の廃止は希望する高校を自由に選択できるので大変嬉しい。
- ・地域にとって高校は要であり大切な存在です。しかし、そこに通う子どもたちが地元の子である必要はない。高校生は大人の準備期間でもあり、地元から離れた場所で過ごすこともある。そこでその地を支えていくことが大切である。
- ・通学圏が1つになり21校になるようですが、中学生が選びきれぬか心配です。選び直しができる制度をお願いします。
- ・通学圏の拡大により遠距離通学となると、経済的な面も含め、本人にも保護者にも負担が大きい。また、通学途中の危険度が増すと危惧する。
- ・地域の子供もは地域で育てるという流れが強まる中、地域の学校に通えないのは逆行している気がする。できるだけ近くの高校に入れるようにしてほしい。

##### (3) 入学者選抜制度の全体について

- ・単独選抜になり、行きたい学校を主体的に選ぶことができ、頑張れば希望する高校に入学

- できるようになることはよいことだと思う。希望が叶えば、やる気が増す。子どもが希望を明確にして目指し、努力して円滑に進学できるようにしてほしい。
- ・なぜ近くの公立高校にしか入ることができないのか不思議だった。入試制度の見直しとともに、魅力ある公立高校を築いてほしい。
  - ・入試制度がわかりやすくなり良いと思う。住んでいる場所により高校が限定されないで、すべての子が等しい条件で受検できるのはありがたい。
  - ・長い間、京都市内では「中学校でそこそこやっておけば近くの公立高校に行ける」という安心感があったが、裏返せば「そこそこやるだけでいい」という中学生の学習に対する甘えであった。制度改革を機に、中学生が自分の将来をより真剣に考え、自分の適性や希望にあった高校選びを慎重に進め、学習にも熱心に取り組むようになることを期待する。
  - ・数多くの中から目指す道を見つけるために、少し早くからじっくり見つける時間を持つことは良いことだと思う。
  - ・行きたい学校に行けない場合、その理由が住所によるものなのか、自分の力や適性など何らかの基準に達しなかったことによるものなのか、いずれが納得できるものかと考えれば、後者であることは明らかである。
  - ・全面的に単独選抜に移行するべきで、志願者が偏る心配には願書受理数を公表するなどして、すみやかに新制度に移行してください。
  - ・予想される高校毎の偏差値を公表してはどうか。「格差を助長する」との声もあるだろうが、保護者の願いであり、中学の進路指導の教員も活用すると思う。
  - ・好きな高校に行ける枠を広げることに賛成であるが、経済的な事情で子どもの将来や行きたい道を絶たず、全員が行きたい類や科を選べ、全日制に行けるようにしてほしい。
  - ・中学生が多くの高校から「主体的に選べる」のか疑問である。希望する子は全員高校に入学させてほしい。
  - ・3回の入試機会があるが、普通の成績で特技のない子には1回のチャンスだと思われる。結局、不人気校に入学させられてしまうような制度にはしないでほしい。
  - ・学校間格差がさらに広がり、「人気のない学校」での苦勞が推察され、地域にも根を持たず、自己責任での履修や進路の選択を押しつけられることが懸念される。
  - ・各高校が特色ある教育を充実させれば、危惧される過度な序列化や受検競争の激化は避けられる部分があるため、その仕組みを充実していただきたい。

#### (4) 前期選抜について

- ・中学校で頑張ってきた生徒、学ぶ意欲のある生徒等が行きたい高校に行けるようにしてほしい。前期選抜で専門学科の募集定員は100%が良い。
- ・各高校が特色を打ち出し、自由に選択できる制度への移行は歓迎である。ただ、専門学科と普通科で前期の募集割合に大きな開きがあるが、同等に高校を選べる仕組みにすべき。
- ・前期で相当数の合格者が出ると、学習意欲が低下した生徒が増えるため、中学校の授業環境が悪くなり、指導に困難な状況が予想される。
- ・前期選抜の割合が高まれば、早く希望する高校に受かりたいという思いが強まり、競争が過熱する。
- ・前期選抜の募集人数が15%よりも拡大とあるが、具体的な目安を示してほしい。前期・中期どちらが多く募集するかにより志望校も変わってくる。
- ・部活動の実績さえあれば勉強しなくていいと考える生徒が出てきたりするので、前期選抜の部活動希望者の選抜でも、英・数・国の基礎テストの実施が必要である。
- ・学力試験以外で合否を判定する基準を明確にする必要がある。

## (5) 中期選抜について

- ・地理的条件を考慮して、入学校を決定するという制度に納得がいかなかったので、どの高校にも志願可能で、自分が行きたい高校を選べるようになることには大賛成である。目標を持って受検し入学できたら、その後のやる気も違う。
- ・前・中・後期と選抜を行うなら、中期が本番となるよう多くの定員を募集してほしい。
- ・府全体の先頭を走る制度にしてほしい。キャリア教育の観点と学力に応じた進路指導がきめ細かく行われるよう、安易な第2順位等は廃止する方向でしっかりと考えてもらいたい。
- ・中期選抜の第2志望が定員を割った時のみ有効では無意味な気がする。
- ・単独選抜になれば志願者数が偏ることは必至である。中期選抜の志願枠を5つ位にして、中期の合格者を増やしてほしい。
- ・自分の学力に応じてどこの高校を選ぶのかの指標がないため、志望の偏りなどを開示し、適正な志望校を選べるようにすべきである。
- ・高校の序列が生じ、「行きたい高校」ではなく「行ける高校」を選ばざるを得なくなるのではないか。自宅から近い高校を希望しながら、通学費と時間をかけて遠方へ通学する生徒も出る。希望による「地域枠」をつくるなどの工夫をしてはどうか。
- ・受検生が集中する学校と定員割れする学校が生じる。格差は仕方ないが、もっとよくつめるべきであり、実施年度を来年からと決めて内容を後回しにしないでほしい。

## (6) 後期選抜について

- ・後期選抜の学力検査なしには賛成である。
- ・最初から勉強をしない生徒もいると思うので、後期選抜でも学力検査を実施してほしい。努力して入学できれば嬉しいし、簡単に学校を休んだり辞めたりできないのではないかな。
- ・後期選抜は欠員がある場合のみとせず、一定の割合で選抜を行ってほしい。前・中・後期選抜の募集定員の割り振りなどは、制度が落ち着いた後に高校独自の裁量で変更が可能ということにすればよい。

## (7) 入学者選抜における報告書について

- ・報告書と当日のテストの点数で合否を判断する方式を継続すべきである。決して報告書の取扱いが軽くなるようにしてほしい。
- ・報告書は、現状と同様に中学校3年間を見ないと、生徒の努力が報われない。
- ・報告書における教科ごとの点数はこれまで通り（実技教科2倍）としてほしい。受検のためだけの学びではなく、全教科を学ぶことの重要性を子どもに理解してほしい。
- ・基準はあるものの公平な評価がされているのか疑問の念が消えない。より公平な入学者選抜に向け、報告書の扱いとそれを決める教員のことをしっかりと考えてほしい。
- ・内申書は客観的なテスト点のみにすべきである。平均点とともに偏差値の方が望ましい。また、美術や音楽など教師の主観が入る教科は外すべきである。
- ・副教科を2倍にするのは公正さを著しく欠いている。9教科とも同じ扱いにすべきである。
- ・不登校経験があるので、内申がかなり不利になる。内申を考慮せず、入試の点数のみで選抜することも考えてほしい。
- ・日本人学校のない外国で2年間滞在して帰国した。日本での中学2年間の通知簿の記録がなく、かなり不利である。できれば報告書がなくても受検できるシステムを残してほしい。

## (8) 中学校の進路指導について

- ・総合選抜制度が長く続いていたため、公立中学校教員の進路指導力に不安がある。進路指導のノウハウについて教員への教育・指導を強く希望する。

- ・塾に行かなければ希望の高校に行けないという現状の中学校を変えることが抜けている。高校が変わっても中学校が今のままでは生徒の意欲は変わらない。
- ・大阪では、公立高校の出願初日の志願者数の新聞発表などをもとに倍率を見ながらぎりぎりまで中学校を進路指導している。そうしないと担任は進路指導しにくいのではないか。

#### (9) 新しい教育制度の実施時期について

- ・早急に制度の詳細を決定し、実施してほしい。
- ・京都の高校入試制度は非常にわかりにくいと思っていた。受検機会が増え、自分の行きたい高校に行けるチャンスをただけて感謝する。ぜひ来年度から実施してもらいたい。
- ・新制度について、保護者からは不安の声が多く聞かれる。早い段階で詳しい説明をしてもらわないと親も子どもも戸惑う。
- ・自由に進学先を選べない現状の見直しは十分に検討した上で進めてほしいが、検討中の制度を現中学2年生から実施することには納得できない。来年度入学の新中学1年生から実施が妥当である。
- ・準備期間も短く、中学校・高校、中学生や保護者への十分な説明もなく、頻繁に制度を変えるのはやめてほしい。周知期間を設けるべきである。

#### (10) その他

- ・受検までに高校ごとの特色や高校の序列がはっきりわかるようにしてほしい。
- ・同じ普通科で、施設・設備に学校間格差が生じることのないようにしてもらいたい。
- ・高校の魅力を増す努力が不十分なように感じる。各学校が特色を出せるよう、施設・設備の充実や個性ある教員の配置をバランスよく、かつ重点的に行うべきである。
- ・人気校と不人気校の格差をなくす取組はどうするのか。各高校間で格差や序列化につながるかと心配する。
- ・全府的にはどうなるのか、今後周知してもらいたい。
- ・発達障害やLD、障害のある生徒への教育の充実、また、進路の選択肢を少しでも増やしてほしい。